

国内外から多くの観光客を迎える駅舎内には観光インフォメーションコーナーがあり、様々な言語のパンフレットが配置されている。



JR室蘭本線 白老駅

白老郡白老町東町1丁目／明治25年、北海道炭礦鉄道の駅として開業。令和2年、リニューアルされ、副駅名称が「ウポボイ 民族共生象徵空間前」となった。ウポボイのロゴカラーをイメージした紺色を屋根などの外観や内装の一部に採用。町の顔として存在感を示している。

駅まち叙景

Vol.4

白老



はるかな歌声が響くまち

伝説が息づく海岸や湖沼、内陸部に広がる豊かな森林。自然が織りなす景観と悠久の歴史が、探求心を刺激するまち白老。この地には、江戸時代後期以降の開拓の歴史と、そのはるか昔から暮らしてきたアイヌの人々のルーツが共存する。

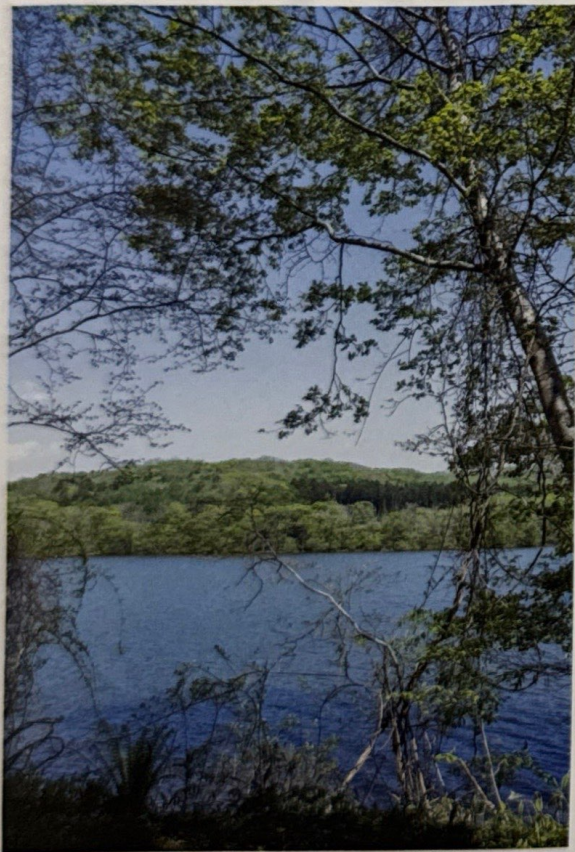
幕末の動乱期、ロシアなど西欧列強諸国の侵攻を警戒した幕府から蝦夷地の警衛を命じられた仙台藩が、白老に軍事拠点である陣屋を設営した。この仙台陣屋の建築にアイヌの人々も携わったという伝承がある。

戊辰戦争が勃発すると、仙台藩士たちは本州へ引き揚げたため陣屋は解体されたが、後に地元の人々によって発掘された陣屋跡は、貴重な文化財「白老仙台藩陣屋跡」として保存され、現在も調査が進められている。

白老の地名は、アイヌ語の「シラウオイ（蛇の多い場所）」に由来する。古くからアイヌの人々が「コタン」と呼ばれる集落を営み伝統的な暮らしを紡いだ「シラオイコタン」は、昭和四十年、景観の美しいポロト湖畔へ移転。アイヌ文化伝承の役割を引き継ぎ「ポロトコタン」が創設された。ポロトコタンは、観光を通じて国内外にアイヌ文化を発信し、他の先住民族との交流も深めて、平成三十年の開園まで多くのゲストを迎えてきた。

ポロト湖の周囲には、太古の姿を残すポロト自然休養林が広がる。林内にはいくつもの遊歩道や自転車道があり、森林浴やバードウォッチング、サイクリングを楽しむことができる。この夏、喧騒を離れて、ウポボイを抱くポロトの森へ。深緑の森は、多種多様な生命の気配に満ちあふれている。

駅のガラス窓や天井部分、駅前の自動販売機や郵便ポストにも美しいアイヌ文様が描かれている。



ポロト自然休養林(ポロトの森)には、エゾモモンガやエゾシカ、エゾリスなどの動物やアカゲラ、オオルリ、クロツグミなど約80種の野鳥が生息する。



美しい言葉と、 生きている文化と出会う。

アイヌの人々にとって、歌や踊りは、コミュニティの絆を深める重要な手段であり、日々の暮らしや儀礼の中でカムイ(いわゆる神)と共に楽しむために演じられてきた。

ポロトの森に溶け込むように立地するウポポイ(民族共生象徴空間)は、アイヌ文化を次世代へつなぐ拠点として令和二年に開業した。「(おおぜいで)歌うこと」を意味するウポポイという愛称には、多様な人々が共生する未来へのメッセージが込められている。

広大な園内には、国立アイヌ民族博物館をはじめ、カフェやレストランを併設するエントランス棟、古式舞踊を上演する体験交流ホール、茅葺きのチセ(家屋)が再現された伝統的コタン、工房などが点在する。アイヌ語を第一言語とするウポポイでは、様々なところで「イランカラプテ(あいさつ)」の言葉が飛び交う。民族衣装の試着や弓矢、ムックリ(口琴)やトンコリ(弦楽器)の演奏など多彩なプログラムを通して、アイヌの人々の世界観や信仰、クリエイティビティを体感できる。中でも伝統的な手仕事である木彫りと刺しゅう、そして伝統料理「オハウ」の実食体験は、小学生から高齢のかたまで気軽に楽しめるプログラムという。会場となる工房と、体験学習館を訪ねた。



(公財)アイヌ民族文化財団

思いや祈り、英知など
見えないものも描かれている。

アイヌモシリ(人間の大地)では、木彫りは、男性の手仕事とされてきた。求婚相手に、鞘に文様を彫ったメノコマキリ(女用小刀)を贈る慣わしがあり、その仕上がりで男性の器量が表されたという。木彫りは父親から息子へ大切に伝えられてきた技術のひとつ。少人数のワークショップで、講師のきめ細かな指導のもと、彫刻刀を使いコースターに文様を刻む。下書きされた線に沿って彫っていく筋彫りは、一見、簡単そうに見えるが、体験して初めて木彫りがいかに細やかな技術であるかがわかる。繊細な鱗彫りやシンメトリーな連続模様は、手仕事の域を超えたアートだった。

一方、刺しゅうは、主に女性が担ってきた手仕事で、衣装や生活道具に様々な思いが込められた文様が縫い上げられてきた。

同じ空間で作業をする中で、和やかな空気が生まれ、会話も弾むなど手仕事の不思議な魅力がある。刺しゅうを通して海外のお客様との交流も生まれているという。

(公財)アイヌ民族文化財団



緻密でシンメトリーな構成、優美な曲線、木材の質感を活かした彫り方には、繊細な技術と独自の美意識が込められている。



【イヌイエアン ロ】文様の彫刻体験

製作するアイテムはコースターとスマホスタンドの2種類から選べる。彫り終わった後にクルミのオイルで磨きあげたら完成。

〈料金〉コースター1,000円、スマホスタンド1,500円

滋味豊かな伝統料理「オハウ」を味わう。

食の宝庫といわれる北海道。この地で先住民族たちは何を食べ、どのような食文化を紡いできたのだろうか。

「イペアン ロ」は、アイヌ語で「食べましょう」の意味。このプログラムでは伝統料理「オハウ」を堪能することができる。オハウは季節ごとの食材を使った汁もので、チエブ（魚）を使った「チエブオハウ」、ユク（鹿）を使った「ユクオハウ」、キナ（山菜）を使った「キナオハウ」など様々な種類がある。特徴は塩と油だけのシンプルな味付けで、透明なスープにはコクがあり、一つひとつの素材の味が際立っている。

オハウによく使われる鮭は、アイヌの人々にとって欠かせない食べ物で、皮や骨など余すところなく活用される。調理法も多彩で、北海道の郷土料理として知られるルイベは、アイヌ語の「ル（溶ける）イペ（食べ物）」が語源。生の鮭を冷凍し凍ったまま薄切りにしていただくルイベは、秋から初冬にかけて大量に獲れる鮭を、冬の寒さを利用して凍らせて保存した先人たちの知恵から生まれた。自然と共生し、その恵みを最大限に活用してきたアイヌの人々の英知は、実は驚くほど北海道の暮らしに息づいている。ウボボイでの体験は、まさに生きている文化との出会いだった。



（公財）アイヌ民族文化財団



アイヌ文様には様々な形がある。



【イペアン ロ】 実食体験

鮭と昆布、根菜がごろごろ入った「チエブオハウ（魚の汁もの）」は、素材の旨みが活かした具だくさんの汁もの。ぬくもりある木の器で、鮭の燻製「サッチェブ（魚の干しもの）」と薬草「エント（ナギナタコウジュ）」のお茶とともに提供される。

（料金）1,000円

【イカラカラアン ロ】 文様の刺しゅう体験

選べるアイテムはバッグ、ブチフレーム、コースターの3種類。生地や糸にもバリエーションがあり好きな色の組み合わせを選ぶことができる。

（料金）バッグとブチフレームは1,000円、コースターは無料





ウポポイ
PRキャラクター
トウレツポン

出かけよう!

ウポポイに

すあ.

ウポポイ
通信

UPOPOY
information

2025
7

Pick up!

国立
アイヌ民族博物館

第10回
特別展示



ウィーン万国博覧会 会場写真(部分)/東京国立博物館所蔵 Image: TNM Image Archives

開館5周年記念

ウィーン万国博覧会と アイヌ・コレクション

約150年ぶりに北海道に戻ってくるドイツ・ベルリンの海外コレクションを展示し、日本にとって近代化と国際化の象徴であるウィーン万博を起点とした、アイヌ・コレクションの形成とその時代背景を紹介します。

期間 前期: 7月5日(土)～8月31日(日)
後期: 9月13日(土)～11月16日(日)

詳しくはこちら

料金 特別展示観覧料無料 ※ウポポイ入場料が必要です。



7月の関連イベント



ウィーン万国博覧会と
アイヌ・コレクション
オープニング記念講演会

日時 7月5日(土) 10:00～10:45
[受付9:30から]

講師 ラース・クリスティアン・コッホ氏
(ベルリン国立博物館群民族学博物館およびアジア美術館 館長)
アンリエット・ラヴォー・ヴレクール氏
(ベルリン国立博物館群民族学博物館 東アジアおよび北アジア担当 学芸員)



ギャラリー
トーク

日時 7月6日(日)・7月19日(土)
7月21日(月・祝)・7月27日(日)
14:00～14:30
[受付13:45から]

芸能と食をテーマに

江差追分と文化交流!

▼ こちらでもチェック ▼



ウポポイ

7/19(土)～8/31(日)は
夜間も営業!
(9:00～20:00)

【営業時間】 9:00～18:00

【閉園日】 月曜日(祝日または休日の場合は翌日以降の平日)
※7月21日(月)は開園

【入場料】 大人(一般)1,200円、高校生(一般)600円 ※税込
中学生以下無料

お問合せ

公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)
住所: 〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3
電話: 0144-82-3914 FAX: 0144-82-3685

最新情報・詳細は
公式ウェブサイトへ

ウポポイ



※各種SNSも更新中! ※





アイヌ文化のことをもっともっと話したい！
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソッコ(=お便り)形式のエッセイです。

ウポポイ5周年

村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)

〇二〇年に開園したウアイヌコロコタン民族共
生象徴空間(愛称「ウポポイ」)が今月、開園五
周年を迎えます。この間、多くの皆様がウポポイに足を
運んでくださいました。ウポポイで働く私からも感謝申
し上げます。イヤイライケレ(ありがとうございます)！

ウポポイはアイヌの歴史、文化を学び伝えるナシヨナ
ルセンターとして、アイヌ語をは
じめとするアイヌ文化を伝承、
共有するとともに、互いに尊重
し、共生する社会のシンボルと
して位置付けられています。令
和元年に施行された「アイヌ施
策推進法」にも、「…誇りが尊重
される社会の実現を図り、もっ
て全ての国民が相互に人格と個
性を尊重し合いながら共生する
社会の実現に資することを目的
とする。」とあるように、ウポポ
イが共生社会について考える
きっかけとなるよう活動しています。

四月に開幕した大阪・関西万博でも、アイヌ工芸品展
「イランカラッパ アイヌ文化をウポポイから」を開催、
EXPOホールでは「ウレシバ モシリ(育てあふ大地)」と
題し、アイヌ舞踊公演を実施。道内外に暮らす約三三〇
人が出演しての大群舞は圧巻でした。EXPOのテーマ



イラスト/山丸ケニ

「いのち輝く未来社会」では、「…互いの多様性を認める」
とで他者への共感を育み、多様な文化を考え尊重しあう
ことによって、共にこの世界を生きてゆく。社会のあり方
を共創する万博とのメッセージが。まさにウポポイの
アイヌ語名称でもある「ウアイヌコロ(尊敬し合う)」考え
です。ウポポイでは昨年、個人や民族の尊厳を損なう差
別や嫌がらせなどの「レイシャル
ハラスメント」を許しません」と
いう「ウアイヌコロ宣言」を表明し、
多様な価値観について考えるきう
かけとしました。また、道内外の
高校十四校、七八人が参加して
オンラインやウポポイでの学び体
験をとおして、互いを認め合いな
がら暮らす共生社会について話し
合う「ウアイヌコロ会議」を開催。
未来を担う若者からのさまざま
な考えや提案が共有された、良
い機会となりました。

ウポポイ五周年を記念した「ウポポイ祭」を開催しま
す。今回は芸能や食をテーマに江差追分とのコラボな
ど、芸能の魅力をたっぷり紹介する他、江差の郷土料
理を堪能できるなど、五感で楽しむ体験が満載です。一
緒に歌って、踊って、食べて、笑って、感じて、考える…、そ
んな時間をウポポイで共有しませんか？



今回のテーマは「トマ/キナ(ごぞ)」
本田優子(札幌大学教授)が担当します。



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トウレンポン」

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。



イランカラッパ
「こんにちは」からはじめる。

アイヌ文化を正しく伝える

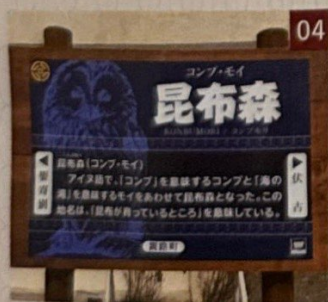
知的財産権保護事業 認証事業

アイヌ文様、美術音楽等に関わるアイヌアート、アイヌ語、アイヌ舞踊など古来よりアイヌ民族が育んできた知的財産の適切な使用と普及を目的としています。

阿寒アイヌコンサルンを中心に、阿寒湖アイヌコタンの各組織の代表で合議し、アイヌ文化の適切な利用であることを認証。監修・制作したものは(A) AIPR認証マークと認証コードを発行いたします。ご相談者はコンサルタント料等を支払い、認証されたアイヌ文様等(知的財産)を使用することができます。



- (A)AIPRは、(一社)阿寒アイヌコンサルンがアイヌ知的財産として認証した事を示すマークです。
- cikarpe akanは、商品の発売元が(一社)阿寒アイヌコンサルンである事を示すマークです。



- 01 三部けい「お伽の箱のレト」/アイヌ語助言・協力
- 02 北海道大学「観光学フィールドワーク」アイヌ料理体験メニュー監修
- 03 京呉服の店「田巻屋」オリジナルアイヌ文様 半幅帯/角帯 アイヌ文様認証
- 04 釧路町教育委員会「難解地名看板」/アイヌ語監修・認証



<https://a-ainucon.com/>

©Kei Sanbe/
SQUARE ENIX

私たちは、アイヌ文化を知的財産として、
正しく広く普及させることを目的に
活動しています。



一般社団法人 阿寒アイヌコンサルン

アイヌ文化に関する使用のコンサルティング・監修・制作・認証の
ご相談を承っております。

〒085-0467 北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉4-8-3

TEL:0154-65-8973 FAX:0154-65-8985 HP: <https://a-ainucon.com/>



アイヌ アートギャラリー

雄大な自然と共に受け継が
れてきたアイヌ文化と観光のナ
ビゲーターとして阿寒湖アイヌ
コタンの入口にアートギャラ
リーコタン屋があります。



01

01

【阿寒湖アイヌコタン】
アートギャラリー
コタン屋



<https://akan-artgallery.com/>

オンラインショップ

コンサルンオリジナルブランド
「cikarpe akan」から発売
中のアイテムなどをオンライン
ショップより購入できます。

阿寒アイヌコンサルンオリジナルショップ
KOTAN-YA
-コタン屋-



<https://ainuakan.base.shop/>

サテライト シヨールーム

新宿パークタワーに展示販売
シヨールームを開設しました。ア
イヌ文化に関心がある方、アイ
ヌ文化を取り入れた商品開発
をお考えの企業様、「cikarpe
akan」のアイテムなどを手に
とつて見ることで、購
入も可能です。

●詳しくはこちら



<https://www.monova-web.jp/akan-ainucon/>



ウポポイ
PRキャラクター
トウレツポん

出かけよう！
ウポポイに
さあ、

ウポポイ
通信

UPOPOY
information

2025
8

Pick up!

ワーク
ショップで
楽しもう！

夏休みは ウポポイ！

昼も夜も、遊んで学べる新体験がいっぱい！

スカイ
ランタンを
飛ばそう！

いっしょに
踊ろう！
歌おう！

こちらでも
チェック



ウポポイ

8月8日(金)～17日(日)

博物館を
見てみよう！



国立
アイヌ民族博物館

第10回
特別展示



開館5周年記念

ウィーン万国博覧会とアイヌ・コレクション

約150年ぶりに北海道に戻ってくるドイツ・ベルリンの海外コレクションを
展示し、日本にとって近代化と国際化の象徴であるウィーン万博を起点とした、
アイヌ・コレクションの形成とその時代背景を紹介します。

期間 前期：7月5日(土)～8月31日(日)

後期：9月13日(土)～11月16日(日)

料金 特別展示観覧料無料 ※ウポポイ入場料が必要です。

詳しくは
こちらを
チェック



8月の関連イベント ～夏休みイベントウィーク～

第10回特別展示「開館5周年記念 ウィーン万国博覧会とアイヌ・コレクション」

トウレツポんのおさんぽ 特別版
トハクくん、ユリノキちゃんが遊びにきたよ！

8月15日(金)・16日(土)・17日(日)
14:20～14:40

おしゃべりギャラリートーク

8月9日(土)・10日(日)・
11日(月・祝)・13日(水)・14日(木)・
15日(金)・17日(日)
13:30～14:00 (受付13:15から)

はくぶつかんの
うらがわツアー

8月16日(土)
13:30～14:15
(受付13:00から)

夜のギャラリートーク

8月9日(土)・16日(土)
16:15～16:45
(受付16:00から)

8月は毎日20時まで夜間営業！
8/11(日)は特別開園日！

【営業時間】9:00～18:00

【閉園日】月曜日(祝日または休日の場合は翌日以降の平日)

【入場料】大人(一般)1,200円、高校生(一般)600円 ※税込
中学生以下無料

お問合せ

公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)
住所：〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3
電話：0144-82-3914 FAX：0144-82-3685

最新情報・詳細は
公式ウェブサイトへ

ウポポイ



各種SNSも更新中！



今月のテーマ

シキナ(ガマ)

本田優子(札幌大学教授)

アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。

夏

から秋にかけて湿地で見かける、フランクフルトのような穂がついてる植物、なんでしょう?

そう、ガマです。ガマはアイヌ語ではシキナ。シール本当の、キナリ草という意味になります。ガマは暮らしの必需品であるゴザの材料なので、そういう立派な名前になったのですね。ゴザの材料になる草はいくつ

があります。ガマの葉は内部がスポンジ状のとても温かい構造になっているので、最も適しているのだと言われます。

昔、二風谷で暮らしていた

萱野茂先生

とガマ刈りに

行きました。ガマの葉は水中

の白い部分が多いほど、変色

しないきれいなゴザになると

のことで、長い柄の先に鎌を結

びつけ、胴長で腰まで沼に浸

かって刈っていました。ところ

がその時、近くに小さくてかわ

いガマの穂があるのを見つけた私は、「家に飾ろ

う」と思って刈ったのです。すると、滅多に怒ること

ない萱野先生から「遊びで採るんじゃない!」と大声

で叱られました。たしかに穂の中は種。資源保持

を考えるとむやみに採ったりしてはいけないのだと

反省し、忘れられない思い出になりました。



イラスト/山丸ケニ

ゴザには、普段の敷物として使う無地のものと、赤と黒の美しい模様の入った花ゴザがあります。その模様が大好きな私は、二風谷に移り住んでしばらくの頃、尊敬するフチ(おばあさん)に小さな花ゴザの制作をお願いしたことがあります。「なんに使うの?」と訊かれたので「玄関マット」と答えると、びっくりした表情で「模様は足で

踏んだらダメなんだよ」と言われました。たしかに花ゴザは儀式の際に壁を飾ったり、ロルン(上座)の供物や道具の下に敷かれるもので、人がその上に座ったりはしないのです。ましてや足で踏むための玄関マットなんて。恥ずかしくて真っ赤になりました。でも、できあがってきたゴザには、両端に赤と黒の線が入っていて「端っこをわざわざ踏むことは

ないですよ!」って。優しいフチの思い出です。

模様部分は草木染めした木の皮の繊維を編み込むのですが、近年は赤と黒の木綿布を使うことも多いようです。前者は落ち着いた色合いです。後者は遠目にもくっきりと模様が浮き上がり、どちらもステキです。



今回のテーマは「チビヤク(オオジシギ)」
村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)が
担当します。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トレッポん」



イランカラプテ
「こんにちは」からはじめる。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。